

Photographic Society of Zone System

ゾーン・システム研究会会報 Web 公開版

発行日：2014.2

発行者：中島秀雄

事務局：畑文夫

編集部：荒井崇

NO.56

CONTENTS

- ・ 「キャパ」の写真を巡って・・・その3
- ・ 【ファインプリントの美しさ】
（第18回写真展 中島代表挨拶文）
- ・ ゾーンシステム研究会第18回写真展全作品
- ・ ゾーンシステム研究会第18回写真展スナップ
- ・ ゾーンシステム研究会第18回写真展作品データ
- ・ ゾーンシステム研究会第18回写真展メディア掲載
- ・ インフォメーション



「キャパ」の写真を巡って・・・その3

中島秀雄

沢木は、再びエスペホの丘(注1)に戻り、この斜面で撮られたキャパとゲルダの写真を見直し始めた。写真を見てこれが演習に見える根拠は、当時使っていたライフル銃スパニッシュ・モーゼルにあった。この銃はオートマチックライフルと違いボルトアクションタイプの銃で、射撃には一回ごとにボルト操作が必要になる。写真を見ると銃のボルトが射撃の位置になく、仮に引き金を引いたところで弾が飛び出すことはないと言った数人の専門家から確認をとっている。

確かに写真に写る多くの兵士が持つ銃を見ると、射撃準備が無いままに構え、突撃しようと塹壕から身を乗り出している。敵を目前にして射撃準備も無いまま構えるものなのか。

キャパとゲルダが撮影した一連の写真の共通点は、光と人物の陰と角度、草の陰、空に浮かぶ雲の様子、遠景の山並みなどほぼ一致している。沢木は、これらの背景は、「崩れ落ちる兵士」が撮られたときの背景と同じだと見ている。

また、コンタクトプリントには、演習中に撮られた「崩れ落ちる兵士」の男が元気に銃を構える姿が写っている。沢木は、コンタクトプリントに時間をかけて詳細に眺めていくことであることに気が付いた。それは雲の流れだ。雲の流れからコンタクトプリントの一コマコマから撮影時間経過を推測することが出来ると気付いた。すると演習中に撮られた「崩れ落ちる兵士」の男は、有名になった「崩れ落ちる兵士」として撮られた時間よりも後に撮られたように見たのだ。

このことから沢木は、「崩れ落ちる兵士」はこの一連の演習中に撮られていて撃たれてもいないし、

死んでもいないという見方を強めた。

そして、沢木は、もし兵士が銃弾に撃たれたならどのように倒れるのか、銃弾の質量や兵士の体重などから数値化が可能であれば一枚の写真の意味を別な角度から検証できるのではないかという思いに至った。それは、銃弾の重さ、速度、兵士の体重、駆け降りる兵士の速度、運動量、銃弾の運動量などのから導き出されるという。その計算結果から約 27 という数値を得た。この数値は、駆け降りる兵士を後ろに倒すためには 27 発の弾丸を同時に撃ち込まなければ兵士を後ろに倒すためのエネルギーは得られないという結論だった。一発の銃弾では、兵士の体重や運動量から後ろに倒すことは出来ず、そのまま前に突き進んでいくとの答えをはじき出している。

今まで誰も試みてこなかった弾丸の質量計算というある意味で客観的な方法から「崩れ落ちる兵士」の写真との矛盾点を指摘している。

となると、あの演技とは思えない迫真に迫る「崩れ落ちる兵士」の写真はどのように撮られたのか、その手がかりになる写真はどこかにないのか、再び振り出しに戻るようにも思えた。

しかし、沢木は以前「**ルガール**」誌に載った一枚の妙な写真を思い浮かべ、この時以来頭からからはなれなくなった。

それは、銃を片手に一人の兵士が丘を駆け降りる一枚の写真で、かなり低い位置から撮られた「突撃する兵士」と題された写真だ。しかし、よく見ると駆け降りる兵士とちょうど重なるように奥に銃を持つもう一人の兵士が写っていたのだ。キャパは駆け降りる手前の兵士を目的に撮影したが、偶然にもう一人の兵士が写り込んだのだ。しかし、奥の兵士の様子は丘を下るにしては妙な格好で、腰を低く落とし、兵士の持っている銃の

ベルトが上向きに跳ね上がっている。本来、肩に掛けるための銃のベルトは銃の下側にある。兵士が片手で銃を持ち突撃するときも必ずベルトは銃の下側にある。ところが奥の兵士の銃のベルトは上側に跳ね上がり、あきらかに銃の向きは反対になっている。と言うことは、引き金も上を向き、撃てる状態にはまったくない。そして、この兵士は白いシャツを着ている。白いシャツを着た兵士は「崩れ落ちる兵士」しかいない。また、腰に装着する弾丸ケースの位置も「崩れ落ちる兵士」のものと同じ位置ある。

沢木はこの写真について「これまでまったく見逃していて、奇妙なものが写っていることに気が付いた。奥の兵士が持っている銃は逆さまになっている。その意味がわかったとき私はほとんど震えるような興奮につつまれた」と書いている。

丘を下る奥の兵士に何かが起こっていたのだ!!!

駆け降りる途中で斜面に足を取られ滑ってしまったのではないかと推論した。沢木は手前の兵士によって隠れて見えない奥の兵士をイラストレーションにしてイメージ化している。このイラストレーションを見るかぎり、その後の兵士の姿がああ「崩れ落ちる兵士」へと向かうであろうことは容易に想像できる。

キャパがライカで演習のために丘を下る兵士を捉えた「突撃する兵士」の写真と、正に「崩れ落ちる兵士」の二枚の写真から一体何が見えてくるのか。この二枚の写真はわずかな時間の中で撮られている。

ところで、ロールフィルムを扱う小型カメラは、撮影の後、次の撮影のためにフィルムを巻き上げ、シャッターセットする構造になっている。当時の

小型カメラ・ライカは撮影の後、巻き上げノブを親指と人差し指を使ってフィルムを巻き上げ、それなりの時間が掛かる。兵士の動きのわずかな時間にキャパがフィルムを巻き上げ、二枚の写真を撮ることは物理的に不可能だ。

ということは近くにもう一台のカメラがあったということなのか。

沢木は次のように推論した。キャパは訓練のために丘を駆け降りる兵士を地面近くからライカで撮影したが、そのとき偶然にも奥の兵士が丘に足を取られずべる瞬間を捉えていた。近くにいたもう一人の撮影者がローライで構え、丘を左から右に下る兵士にローライで追い撮りしようとした。しかし、ローライのファインダーに兵士は右から左へと進むように見えるはずだ。そこで撮影者は兵士を追い撮りするためにカメラを左に振ることになった。そのため「突撃する兵士」は通り過ぎてしまい写らず、その瞬間に丘に足を取られ滑った兵士があおむけになって銃を手放すあの「崩れ落ちる兵士」の写真となった、と。

この推論は、ローライの二眼レフカメラを熟知していなければ分からないことで、沢木は写真家から二眼レフカメラの特徴を学び、わざわざエスペホの丘まで持ち込み撮影もしている。

(*ローライフレックスのような二眼レフカメラは、撮影レンズとファインダー用レンズが上下についている。ファインダーレンズから入った光は、レンズの後ろにあるミラーによって 90° 上方に曲げられ、ピントガラス面に画像となって映る。写真家は、その画像を見て画面構成、ピント合わせを行う。しかし、上下は正常であるが左右は実像とは反対になる。左から歩いてくる人物は、ピントガラスには右から歩いてくるように映る。この人物を追い撮りするとなるとファインダーで見ているかぎりカメラは左に振ってしまうこともよくある。)

「崩れ落ちる兵士」と「突撃する兵士」の写真は、

光、影の向き、草の位置から同じ時間の中で撮られていると前項に書いているが、写真をよく見るとカメラ位置にわずかなずれがあり、写真を見比べるとライカは低い位置から、ローライはやや高い位置から撮られていることが分かる。また、撮影場所もいくらか異なっている。キャパがライカのフィルムを巻きあげながら瞬時に撮影場所を変えることは難しく、この場合変えることに意味がない。

このことから、沢木は「崩れ落ちる兵士」の写真は、当時、キャパと共に行動していたゲルダ・タロウがキャパの近くからローライで撮影したとするのが最も自然な見方だという結論に至っている。

キャパと行動を共にしていたゲルダ・タロウは、戦場という男の世界で活発に動き回り、周囲には何人もの崇拜者がいたという。しかし、残念なことに事故で命をおとしている。

「崩れ落ちる兵士」の写真は、ゲルダがなくなってから発表された。ゲルダが生きていたら発表していたかどうか分からない。ゲルダの性格からいって、丘に足を取られ滑った兵士の写真を発表するとは思えない。しかし、キャパが発表したことでスペインの内乱を世界に知らしめることになったことは確かだ。

当初、写真はキャパとゲルダの二人の名前で発表していたようだ。だとするならゲルダの死を無駄にしないためにも関係機関に再度検証していただきたいと願うばかりだ。

リチャード・ウィーランの書いた「キャパの伝記」は、キャパの弟コーネル・キャパの全面的な協力によって書かれたという。であればキャパの足跡を崩したくないと思う気持ちはリチャード、コーネルの両者に自然に湧き起こっても不思議では

ない。

キャパの伝記を翻訳することをきっかけに「崩れ落ちる兵士」の真贋に疑問を深めて行った沢木氏の探究心と行動力には驚くものがある。当時、キャパが使っていたと思われるライカとローライフレックスを友人の写真家から借り受け、現地のエスペホの丘で撮影し、ライカのフレームとローライのフレームの違いを事細かに調べ上げ、「崩れ落ちる兵士」の写真はローライで撮影されたと決定づけている。そして、沢木氏は、ローライとライカで撮られた写真の違いについて、「ローライで撮られた写真の方が魅力的に見える。」と述べている。また「崩れ落ちる兵士」だけが白いシャツを着ているとした着眼点、写真を深読みする眼力は見事と言うしかない。

本来、一枚の写真には深い意味が込められ、普段、私達は多くの写真から貴重な情報を見落としているのだろう。そのことを私達に突きつけているように感じた。

デジタル加工に邁進している昨今、写真をより深く読みとる眼力を養うことの方が先なのではないかとキャパの十字架を読み終えて改めて教えられた。

(注1) 「崩れ落ちる兵士」の撮影地

*参考資料：沢木耕太郎著「キャパの十字架」



【ファインプリントの美しさ】

この度、ゾーンシステム研究会は第 18 回写真展・光への探求 を開催いたします。

写真は科学と化学にアートがつながり、その時代のテクノロジーによって改良され表現の幅を広げてきました。その結果、人々は世界のあらゆる場所やものにカメラを向け、見ることの欲望を満たしてきたのです。

しかし、写真の役割は単なる記録だけではありません。考えや感じたものを写真に捉えてきたはずで、それらを十分な技量に基づいて創ったプリントには独特の美しさが備わっています。変化に富む自然風景、人物や身近にある物を捉えたファインプリントからは、現実の美しさを捉えたと判ってはいても、同時に、現実とは違うもう一つの世界が立ち現れてきます。

アメリカの写真家、アンセル・アダムスは、写真家の最終作品はオリジナルプリントにあるとし、その中でも被写体の美しさを自らが完璧なプリントに仕上げたものをファインプリントと呼びました。そのための技法としてゾーンシステムを完成させたのです。

私達はすでにゾーンシステムを学んでいますが、それだけではファインプリントは創れません。写真制作には、被写体と最終作品との間に、カメラ、露出、現像といった、機械的、光学的、化学的なプロセスがあり、それらを一つ一つ自らの技量と情熱によって進めて行くことが絶対に必要であり、それを成し遂げることによって、ようやく被写体は写真作品となっていきます。

銀塩写真はすでに古典技法になっているといわれています。

であるなら、私達は単なる記録としての写真から

離れ、写真本来の役割に徹していきたくと思っています。

ゾーンシステム研究会代表 写真家
中島秀雄

(ゾーンシステム研究会 18 回写真展での
中島代表挨拶文)

ゾーンシステム研究会第17回写真展 [光への探求] 全作品

ギャラリー コスモス [2013年11月5日(火)~11月17日(日)]



ディスク、Morning Newspaper
中島 秀雄



食の形
中島 秀雄



E=mc²
中島 秀雄



アルペロベッコ
松本 ひさ子



雪峯
岡崎 克之



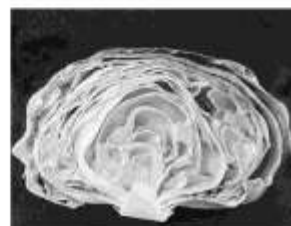
助手席
中島 秀雄



高知産胡瓜
松本 ひさ子



マグロ 食の王様
岡崎 克之



a salad
北野 龍一



雪晴れ
藤田 昇



棚田残雪
藤田 昇



an abandoned pond
北野 龍一



アーティチョーク
浜野 次郎



PASTA
荒井 崇



橋脚
金子 正道



大道芸人
浜野 次郎



奥大日岳
荒井 崇



そら豆
金子 正道



Landscape
橋田 功



廃屋
橋田 功



Kohl
佐野 司郎



Wing
畑 文夫



Invisible cities
畑 文夫



The city & the city
畑 文夫



flood tide (上げ潮)
古谷津 純一



an estuary (河口)
古谷津 純一



tent house
川北 弘



Dried-fishes
穴澤 昭



嚴冬の溪流
穴澤 昭



coalpit rescue
川北 弘



メロディ
越後 久雄



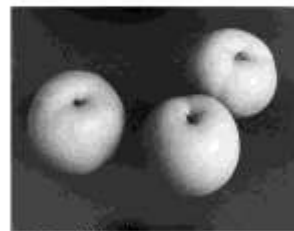
玉葱
越後 久雄



トウモロコシ
井川 博



This seat is vacant but . . .
倉又 茂



夏の終わりに
長谷川 勇夫



Boone & Wright Store, Bodie, Calif., 2005
(ポートフォリオ)

中島 秀雄



青林檎
(ポートフォリオ)

浜野 次郎



a symphony
(ポートフォリオ)

古谷津 純一



雲湧く
(ポートフォリオ)

川北 弘

ゾーンシステム研究会第18回写真展スナップ



・今年の課題作品テーマは「食」。課題作品と自由作品をどうアレンジするかが展示のポイント。中島代表の展示案を基にレイアウトが進められ、非常に見やすい展示となりました。また、オープニングパーティーは大盛況。多くの熱心なお客さんにお越しいただき、大変有意義な交流ができました。

ゾーンシステム研究会第18回写真展「プリント〜光への探求」

2013年11月5日～11月17日 キヤラー・コスモス

タイトル	作者	撮影地	フィルム	フォーamat	レンズ	絞り	スピード	キーゾーン	シャッター	ホワイト	印刷紙
1 flood tide (上行船)	古谷津統一	千葉県	2013年5月	8x10	210mm	F2.1/3	1秒	白波(Ⅶ)	手前の岩(Ⅱ)	太陽(渾光不能)	Kermere fireprint VC
2 奥大日岳	荒井 崇	富山県	2013年4月	4x5	150mm	F4.5	1/4秒	雪のハイライト(Ⅶ)	雪の影(V)	雪のハイライト(Ⅶ)	イーグル VCFB
3 豊後	岡崎克之	長野県	2013年2月	4x5	210mm	F4.5	1/4秒	雪面(Ⅶ)	川～木(Ⅶ～Ⅷ)	雪面(Ⅶ)	SEAGULL VC+FB II
4 棚田降雪	藤田 昇	新潟県	2013年4月	4x5	210mm	F4	1秒	降雪(Ⅶ)	睡い杉林(Ⅱ)	新ら空、雪(Ⅶ)	SEAGAL VC+FB II
5 メロディ	越後久雄	宮城県	2013年6月	4x5	180mm	F4.5	2秒	コシミ(Ⅱ～Ⅳ)	コシミ(Ⅱ～Ⅳ)	雪面(Ⅶ)	SEAGAL VC+FB II
6 チェイス、Morning Newspaper	中島 秀雄	山梨県	2013年2月	4x5	180mm	F2.2	5秒	チェイス(Ⅶ-Ⅷ)	布(Ⅱ-Ⅲ)	チェイス(Ⅶ-Ⅷ)	SEAGAL VC+FB II
7 bent house	川北 弘	福島県	2013年3月	8x10	210mm	F4	1/4秒	テント地(Ⅶ)	手前の草地(Ⅱ)	テント地(Ⅶ)	SEAGAL VC+FB II
8 Wing	橋 文夫	福島県	2013年3月	8x10	300mm	F4	1/8秒	青空(V)	青空(V)	白テント(Ⅶ)	イーグル VCFB
9 a salad	北野 隆一	東京都	2013年6月	4x5	180mm	F4	30秒	レタスの葉(Ⅶ)	背景(Ⅰ)	レタスの芯(Ⅶ)	ILFORD MG Ⅲ FB 1K
10 橋脚	金子正道	群馬県	2013年1月	4x5	90mm	F2.2	1/4秒	橋脚下部(V)	陸(Ⅰ)	橋脚上部(Ⅶ)	Kermere fireprint VC
11 食の影	中島 秀雄	神奈川県	2013年6月	4x5	150mm	F2.2	5秒	イカ(Ⅶ-Ⅷ)	黒のハネ(Ⅱ)	イカ(Ⅶ-Ⅷ)	REBRANT V 02
12 アルバロペロ	松本ひさ子	南イタリ	2013年4月	6x6	85mm	F2.2	1/60秒	中心の壁(Ⅶ)	下方の源泉(Ⅱ)	右上の白壁(Ⅶ)	REBRANT V 02
13 The city & the city	橋 文夫	東京都	2013年9月	8x10	300mm	F4.5	1/15秒	ガード下(Ⅶ)	ガード下(Ⅶ)	ビル壁面のハイライト(Ⅶ)	イーグル VCFB
14 Invisible cities	橋 文夫	東京都	2013年7月	4x5	210mm	F4	120秒	Kohl(V)	背景(Ⅱ)	エリゾのハイライト(Ⅶ)	REBRANT V 02
15 Kohl	佐野 司郎	神奈川県	2013年8月	4x5	90mm	F4.5	10秒	Kohl(V)	背景(Ⅱ)	木柱(Ⅶ)	イーグル VCFB
16 This seat is vacant but...	倉又 茂	栃木県	2009年2月	4x5	150mm	F4.5	1/2秒				ILFORD MG Ⅲ FB 1K
17 coalpit rescue	川北 弘	福島県	2013年3月	8x10	210mm	F4	60秒	鉄製リュック(2人目)(Ⅶ)	雨面の岩(Ⅱ)	中央のヘルメット(Ⅶ)	SEAGAL VC+FB II
18 大湖主人	浜野 次郎	マドリッド	2013年1月	6x9	90mm	F4	1/125秒	湖(V～Ⅶ)	傘(Ⅱ-Ⅲ)	艇(Ⅶ)	SEAGULL VC+FB II
19 an abandoned pond	北野 隆一	長野県	2012年10月	4x5	181mm	F4.5	1/2秒	木の肌(V)	水面(Ⅱ)	小枝(Ⅶ)	ILFORD MG Ⅲ FB 1K

20	Landscape	ニューギンコナ	ホワイトサンズ	2009年5月	KODAK TM1 (T-MAX 400)	6.5	210mm	64	1/4秒	植物の殻(Ⅱ)	日の当たっている岩	SEAGULL VC-FBⅡ
21	トウモロコシ	東京都	自宅	2013年8月	FUJIFILM NEOPAN 100 ACROS	6.5	180mm	64	30秒	トウモロコシ(V~Ⅱ)		イーグル VCFB
22	玉葱	東京都	文京区	2013年6月	KODAK TM1 (T-MAX 400)	6.5	180mm	64	3秒	玉ねぎの玉(白い部分)(Ⅱ)	玉ねぎの玉(白い部分)(Ⅱ)	SEAGAL VC-FBⅡ
23	Dried fishes	東京都	文京区	2013年6月	KODAK TM1 (T-MAX 400)	6.5	150mm	62	1秒	カレイエラ部の右上(Ⅱ)	カレイ(背骨の上部)(Ⅱ)	イーグル VCFB
24	雲霧丸	新潟県	柏崎市	2013年2月	KODAK 320TYP (TRF-X)	6.5	210mm	64	1/8秒	緑い雲霧(Ⅱ)	木、林(Ⅱ)	SEAGAL VC-FBⅡ
25	そば豆	千葉県		2013年6月	KODAK TM1 (T-MAX 400)	6.5	150mm	62	4秒	豆さや(V)	ソーブル(Ⅱ)	Kentmere freprint VC
26	PASTA	神奈川県	自宅	2013年5月	KODAK 320TYP (TRF-X)	6.5	210mm	64	12秒	PASTAのハイライト(Ⅱ)	PASTAのハイライト(Ⅱ)	SEAGULL VC-FBⅡ
27	厳冬の溪流	山梨県	清里	2013年2月	KODAK TM1 (T-MAX 400)	6.6	80mm	62	1/8秒	氷柱と流水の間(Ⅱ)	氷柱と流水の間(Ⅱ)	イーグル VCFB
28	マグロ 食の玉粒	東京都	築地市場	2013年2月	KODAK 320TYP (TRF-X)	6.5	150mm	62	20秒	マグロの肌(Ⅱ)1/2~Ⅳ)	マグロの肌(Ⅱ)1/2~Ⅳ)	SEAGULL VC-FBⅡ
29	高知産胡瓜	松本ひま子	神奈川県	2013年7月	KODAK 320TYP (TRF-X)	6.5	150mm	64	2秒	胡瓜の肌(V)	胡瓜の肌(Ⅱ)	REMBRANDT V G2
30	夏の終わりに	長谷川 雅夫	千葉県	2013年8月	KODAK TM1 (T-MAX 100)	6.5	150mm	62	2秒	葉(V)	葉(Ⅱ)	SEAGAL VC-FBⅡ
31	駒手虎	中島秀雄	神奈川県	2013年6月	KODAK TM1 (T-MAX 400)	6.5	125mm	62 2/3	8秒	山羊(Ⅱ-Ⅲ)	山羊(Ⅱ-Ⅲ)	REMBRANDT V G2
32	アーティチョーク	浜野次郎	東京都	2013年8月	KODAK 320TYP (TRF-X)	6.5	120mm	F 45 1/2	30秒	苞片(Ⅱ~Ⅳ)	苞片(Ⅱ~Ⅳ)	SEAGULL VC-FBⅡ
33	濃墨	横田 功	ニューギンコナ	2009年5月	KODAK TM1 (T-MAX 400)	6.5	120mm	64	1/4秒	濃墨の殻(Ⅱ)	濃墨の殻(Ⅱ)	SEAGULL VC-FBⅡ
34	E-mc ²	中島秀雄	長野県	2013年9月	KODAK TM1 (T-MAX 400)	6.5	125mm	62	1/15秒	雲(V-Ⅱ)	雲(Ⅱ-Ⅳ)	SEAGAL VC-FBⅡ
35	an estuary (河口)	古谷津純一	神奈川県	2013年2月	KODAK 320TYP (TRF-X)	8x10	210mm	F45 S1/1	1/4秒	中央の黒砂(Ⅱ)	中央の黒砂(Ⅱ)	Kentmere freprint VC
36	雲霧く (ポートフォリオ)	川北 弘	山梨県	2010年8月	KODAK 320TYP (TRF-X)	6.6	38mm	68	1/125秒	手前の草葉(V)	中央の雲(Ⅱ)	SEAGULL VC-FBⅡ
37	a symphony (ポートフォリオ)	古谷津純一	茨城県	2009年3月	KODAK TM1 (T-MAX 400)	6.5	190mm	62	1/10秒	白い波(Ⅱ)	岩肌(Ⅱ)	Kentmere freprint VC
38	青林檎 (ポートフォリオ)	浜野次郎	東京都	2007年8月	KODAK 320TYP (TRF-X)	6.5	210mm	62	4秒	網目の暗部(Ⅱ)	網目の暗部(Ⅱ)	REMBRANDT V G2
39	Boone & Wright Stone, Bodie, Calif., 2005 (ポートフォリオ)	中島秀雄	カリフォルニア	2002年5月	POLAROID TYPE 55	6.5	125mm	64	6秒	手前の樹(V)	白い樹(Ⅱ)	SEAGULL GF-2

ゾーンシステム研究会第18回写真展メディア掲載

ジャンル：風景

ゾーンシステム研究会第18回写真展「光への探求」

開催日：2013.11/5 - 2013.11/17

開催地：ギャラリーコスモス



© Hisao Echigo, メロデー, 2013 越後久保

< * * * * *

被写体の温かみや質感を損なうことなく繊細なプリント表現する技法としてゾーンシステムを活用し、自然風景、都市風景、偶然の出会い、静物、人物など会員それぞれのテーマに基づいて制作された作品と、「食」をテーマとした作品およそ40点を展示いたします。

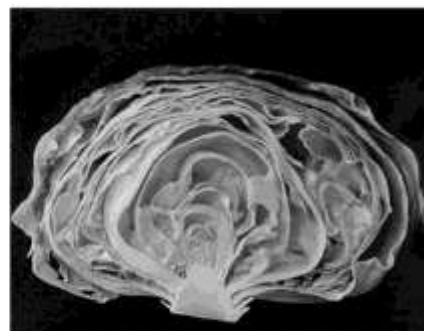
また、プリント作品をコレクションすることも研究会の大きなテーマです。総壇プリントから受ける強い印象と美しさを損なうことのない仕上げにも留意しています。

IMA ONLINE (写真展、写真集の総合案内サイト) [<http://imaonline.jp/>] 掲載

ゾーンシステム研究会第18回写真展「光への探求」

11月5日(火)～17日(日)

被写体の温かみや質感を損なうことなく繊細にプリント表現する技法として、1941年に考案されたゾーンシステムを活用する「ゾーンシステム研究会」の写真展。自然風景、都市風景、人物など、会員それぞれのテーマに基づいて制作された作品と、「食」をテーマとしたモノクロ銀塩プリント作品およそ40点を展示する。



©北野龍一「Salad」

■会場：ギャラリーコスモス(東京都目黒区) ■開場：11:00～19:00(最終日～17:00) ■観覧料：無料 ■休館日：月曜
問い合わせ：03-3495-4218 <http://gallerycosmos.com/>

フォトテクニックデジタル 11月号掲載

写真展 TOPICS

写真展 TOPICS 写真展 TOPICS 写真展 TOPICS 写真展 TOPICS 写真展 TOPICS 写真展 TOPICS 写真展 TOPICS 写真展 TOPICS 写真展 TOPICS 写真展 TOPICS

ゾーンシステム研究会第18回写真展「光への探求」

ギャラリーコスモス

11月5日～17日に開催。ゾーンシステム研究会は、大型カメラによるモノクローム銀塩写真に取組み、その美しさを追求している。大型カメラの特長は、何と云っても圧倒的な描写力と自家処理による創造的なプロセスにある。撮影からネガ現像、その後のプリント制作までのデリケートな感性と集中力を必要とし、一人ひとりの個性を魅力としている。その第18回の写真展が今回となった。内容は、被写体の温かみや質感を損なうことなく繊細なプリント表現を技法としてゾーンシステムを活用し、自然風景、都市風景、偶然の出会い、静物、人物など会員それぞれのテーマの作品と、食をテーマにした作品約40点を銀塩モノクロームプリントで展示。



展 TOPICS 写真展 TOPICS 写真展 TOPICS 写真展 TOPICS 写真展 TOPICS

フォトステージ 11月号掲載

第18回 「ゾーンシステム研究会」写真展 11月5日(火)～17日(日)



「Wing」
畑文夫

大判カメラによる写真の特長と、モノクローム写真の魅力を技法も含めて写真愛好家並びに一般の皆様にお伝えすることを目的に写真展を開催します。

東京 ▶ ギャラリーコスモス / 11:00～19:00、最終日は17:00まで / 休館:月曜日 / ☎03・3495・4218

フォトコン 11月号掲載

Information

[表紙の作品]

- ・ 作者：橘田 功
- ・ タイトル：終りの時
- ・ フィルム：KODAK TMY (T-MAX 400)
- ・ フォーマット：8x10
- ・ レンズ：311 mm
- ・ 絞り：f128
- ・ シャッター：1/2 秒
- ・ キーゾーン：上部霜柱 (VI)
- ・ ハイライト：白樺中央 (VII)
- ・ シャドー：枯葉 (III)
- ・ 印画紙：SEAGULL VC-FB II